

平成の時代とは

参議院議員 藤井基之

薬物問題 その2



わが国における コカイン事犯

厚生労働省「麻薬・覚醒剤行政の概況」による

と、わが国のコカイン事犯は、別図の通り推移しています。検挙人員は、2013年以降増加を示し、17年には185人と過去最多を記録しました。

押収量についてみると、13年12万4148グラム、16年11万3313グラムと、100キロ超の大量の押収が認められています。13年11月には、神奈川県沖横須賀市海岸に漂着した118キロの押収事例が、16年9月には横浜税関が海上貨物より約95キロを押収する事例が発生しました。

また、ごく最近の18年8月に横浜税関では、コロンビアを出港し、途中パナマ、メキシコに寄港して横浜港に入港したコ

ンテナ船から約115キロのコカインが押収されました。最終目的地が日本であったかどうかは必ずしも明確ではありませんが、大量のコカイン押収事例は海路経由による

興奮剤事犯

わが国では、コカインと同様の作用を示す興奮剤事犯は、その歴史的経緯等を踏まえても、覚醒剤事犯がほぼ全てと言っても過言ではありません。戦後の第1次乱用期、1954年には検挙者数が5万5664人を記録しました。

昭和後半の第2次乱用期を経て、現在は第3次乱用期にあるとされており、毎年1万人の検挙者数を数えます。押収量は16年1521.4キロ、17年1136.6キロと1トンを超えます。

多種類の薬物を嗜好する乱用者も存在しますが、覚醒剤の乱用が圧倒的に多く、その再犯率も高い(17年65.5%)わ

▷ 2 ◁

るコカイン使用(乱用)ケースでは、オピオイド系薬物乱用による依存症等の体調不良対策として

てコカインが併用される事例(同時使用、または前後使用)も多いとされます。

この点でも、オピオイド乱用の少ないわが国における状況とは異なります。

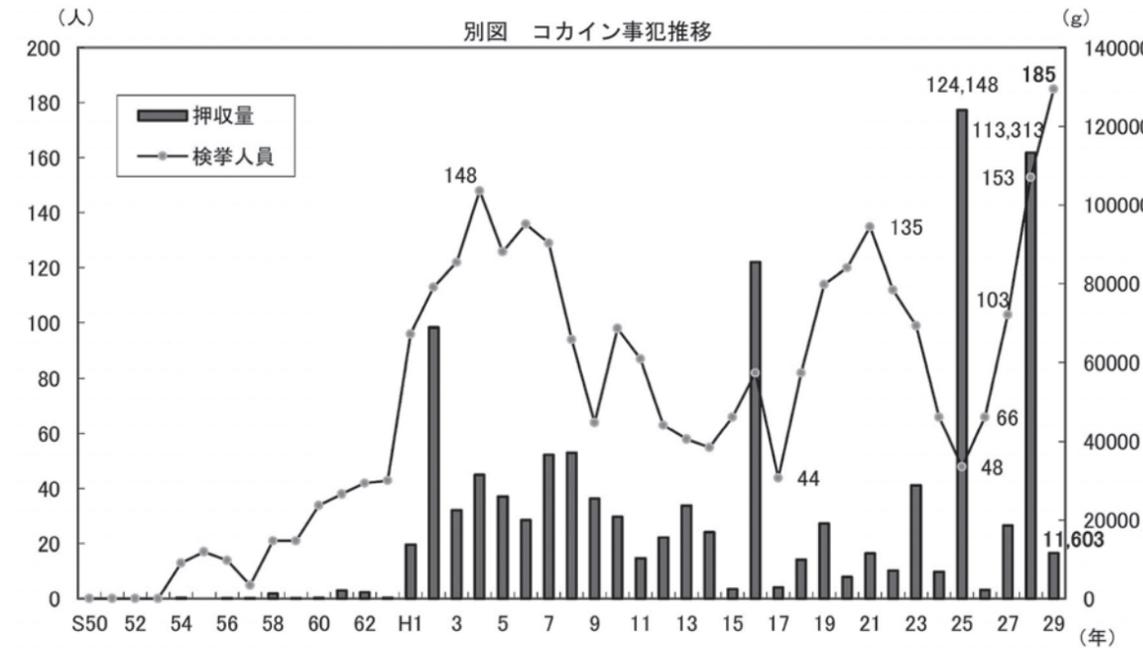
薬物の価格

闇市場における違法コカインの市中卸価格(キログラム当たり)は、オセアニア州オーストラリアでは18万~30万オーストラリアドル(13万6000~22万6000米ドル)に相当し、経路地の一つとされる米国では4000~5万米ドル、一方

主要生産国であるコロンビアでは15000米ドル、ペルーでは8000米ドルで入手可能とされています。従って、犯罪組織にとって大きなリスクはあるものの、密輸はかなりの割の良い、おいしいビジネスとなっている

厚労省の資料によると、国内市場におけるコ

カイン価格はグラム当たり約1万5000米ドル、ペルーでは8000米ドルに譲り渡したとされるコカインの価格は6グラム15万円であったとされています。財務省ホームページによると、覚醒剤の摘発実績(密輸入その他の関税法違反事件)は、16年に1501キロ、17年に1159キロ、18年に1156キロと3年連続で1トン超を記録しています。さらに、今年6月には、静岡県伊豆町の弓ヶ浜海岸で約1トンの覚醒剤が小型船から押収されました。



「麻薬・覚醒剤行政の概況(厚生労働省)」

八丈島を中継地点として「瀬取り」とされており、押収された約1トンの覚醒剤の国内末端価格は約600億円に上ると新聞報道は伝えてい

多価不飽和脂肪酸を交換 腸内細菌の肥満改善効果

農工大グループ

東京農工大学などの研究グループは、腸内細菌が代謝によって食用油中の多価不飽和脂肪酸を、HYAをはじめとする新たな脂肪酸に変換することで、宿主のエネルギー代謝調節に関与し、食事によって誘導される肥満を改善することを明らかにした。

腸内細菌研究の発展に伴い、食事中的多価不飽和脂肪酸が腸内細菌によって代謝される経路が同定されたが、代謝経路から生じる新たな脂肪酸が宿主の生体恒常性維持に及ぼす影響は明らかにされていない。

研究グループは、腸内細菌が食事中に含まれる多価不飽和脂肪酸の代謝を制御することで、高脂肪食で誘導される宿主の肥満発症に与える影響を明らかにした。通常食と高脂肪食の摂取マウスについて、腸内細菌叢と多価不飽和脂肪酸の腸内細菌代謝物群の定量解析を行うと、高脂肪食マウスでは乳酸菌の減少とHYAを含む数種の腸内細菌代謝脂肪酸の減少が確認された。

オメガ6系多価不飽和脂肪酸であるリノール酸を高脂肪食に補充したマウスでは、脂肪組織の炎症が観察されたのに対し、HYA補充マウスではリノール酸を補充した場合に見られた脂肪組織の炎症を誘発することなく、高脂肪食による肥満症状を改善した。

今回の研究から、食事の中に含まれる多価不飽和脂肪酸を腸内細菌が代謝することで、食事によって誘導される宿主の肥満を改善する可能性が明らかになった。肥満患者の増加は社会的な問題となっており、肥満の治療・予防法の確立は急務となっている。腸内環境を制御する食習慣や腸内細菌の代謝産物が代謝性疾患の新たな治療法につながるとして、今後研究成果の応用が期待される。

さらに、腸内細菌研究の発展に伴い、腸内環境の制御が宿主の生体恒常性の維持と密接に関与していることが明らかにされている。今回の研究は、食腸内環境―宿主のエネルギー代謝を正常に維持する可能性を示しており、日常生活におけるQOL向上に生かすことが期待されている。

海外企業との取引や業務提携などに必須の一冊!

JAPANESE PHARMACEUTICAL EXCIPIENTS 2018 (JPE 2018)

JAPANESE PHARMACEUTICAL EXCIPIENTS 2018

- 英文版 医薬品添加物規格 2018 -

2018年7月に発行した「医薬品添加物規格2018」を英訳。英文版としては15年振りの改訂版。

薬事日報社 書籍のご注文は、オンラインショップ (<https://yakuji-shop.jp/>) または、書籍注文FAX03-3866-8408まで。

B5判/上製/約1,200頁 定価27,000円+税